

大雨時の下水道対策 下水道について知っておこう！

昨年10月の令和元年東日本台風（台風第19号）では、市内でも浸水などの被害が発生しました。一部地域ではトイレを使用できなくなるなど、日常生活においても不安を与える事態となりました。

大雨時のトイレ対策

トイレが使えなくなる原因は、主に次の2つが考えられます。

①断水が発生したとき

この場合、水の供給が止まるためトイレの水を流せなくなります。

②下水道管が破損したときや下水道処理施設の機能が低下したとき

この場合、汚水の流れが停滞するため、トイレなどの使用を控えるようお願いすることがあります。このような状況で無理に水を流してしまうと、詰まりや逆流を起こす原因となります。

トイレの使用を含めた生活排水について制限をかけるときは、市ホームページや同報無線などで速やかにお知らせします。

●トイレや洗面所の

逆流を防ぐ

台風などの集中豪雨により雨水が下水道管に浸入すると、下水道管が短時間で満水になることがあります。その際には、汚水が流れにくくなったり、トイレや洗面所からポコポコと音が出たり、便器に溜まっている水が跳ね上がったります。それらの対策として、トイレや排水口を「簡易水のう」でふさぐ方法があります。

●携帯トイレを 備蓄しましょう

下水道処理施設の機能が低下した場合、水洗トイレを使用できるようになるまで、1週間以上かかる場合もあります。1日に行くトイレの回数や家族の人数に応じて、携帯トイレを必要数確保しましょう。携帯トイレはホームセンターなどで購入できます。



簡易水のうの作り方



- ① 45リットルゴミ袋などの比較的大きなビニール袋を2枚重ねにして、水を半分ほど入れます。
- ② 少し空気を抜き、口をしっかり縛ったら完成です。



▲簡易水のうの使用例

雨水対策

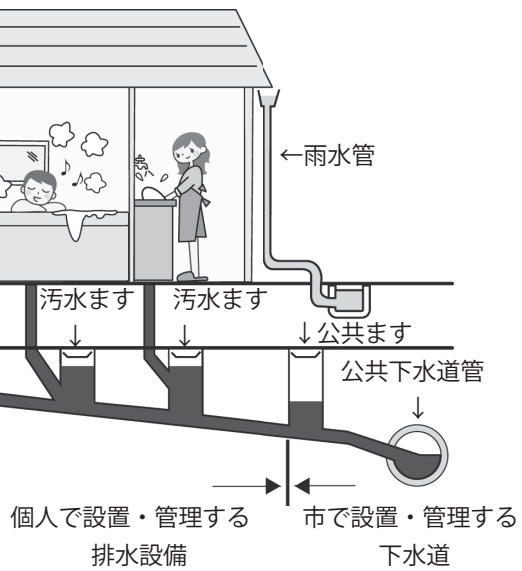
市では、トイレや台所、風呂などで使用した「汚水」と、家の屋根や庭に降った「雨水」を別々に流す「分流式」を採用しています。

汚水は、下水道処理施設である狩野川東部浄化センター（函南町）で処理された後、大場川に放流されます。ところが、降水量の多い日には、通

常と比べて汚水の流入量が増加する傾向にあります。その主な原因として考えられるのが、雨どいなどから流れた雨水の下水道管への誤流入や宅内の汚水ますの破損などです。

●雨水が流入していないか 確認しましょう

雨水が下水道管に流れ込むと、汚水が流れにくくなったり逆流が起きたり



「汚水ます」とは…宅地内の汚水管の維持管理のために設置された「ます」
「公共ます」とは…汚水管と公共下水道管をつなぐ市章の入った最終ます



▲汚水ます

●確認事項

①雨水が下水道管に流入していませんか
家庭の水回りから出る汚水は、汚水管（宅地内で個人が管理する下水道管）を通して公共下水道管（市が管理する下水道管）へ流されます。雨どいなどからの雨水をこの汚水管に流すことはできません。雨水が誤って汚水管に流されていないか確認しましょう。

②「外流し」は適切な管につなげていますか
外流しで使用した水は、宅地内浸透や雨水管へ接続して流します。ただし、屋根や囲いがあり雨水が入り込まないことやその他特別な事情が確認できたときは、汚水管へ接続している場合もあります。改善が必要か不明なときは下水道課までご相談ください。

③宅地内の汚水ますのふたが開いたり、破損していたりしませんか
破損した隙間から雨水が浸入することがあります。見つけた場合は修理しましょう。
公共ますは市で管理しています。破損した場合は市で修理するのでご連絡ください。

●市の対策

市では、雨水などが浸入しているマンホールの修繕をしたり、公共ますを雨などが入りにくいものに交換したりしています。
また、老朽化した下水道管を地震などの災害に強いものにするため、既存の管路を内面コーティングにより改良する管路更生工事やマンホール浮上防止工事を実施しています。これにより耐震性が高まり、雨水や地下水の浸入防止にもつながります。

☎ 下水道課
055(948)2920